日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字かごしま

発行所
日本赤十字社鹿児島県支部
〒890-0064
鹿児島市鴨池新町1番5号
TEL 099－252－0600

第188号 平成23年10月発行

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

東日本大震災から6か月「日赤の支援活動」

～いのちを守りこころをつなぐ～

3月11日午後2時46分に発生した国内観測史上最大の「東日本大震災」から半年が経過した今、津波に飲み込まれた街も、被災者も、明るい希望を秘めて復興に向け一歩ずつ確実に前に進んでおります。

日本赤十字社は地震発生から被災者へ寄り添い、いのちと健康、そして、人間の尊厳を守る取り組みを続けてきましたが、被災地の完全な復興にはまだまだ時間を要します。

日本赤十字社は今後とも被災者に対する支援を継続していきますので、皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

発生時から6か月間の主な日赤の支援活動

3月11日
- 発生と同時に日赤本社に災害対策本部を設置
- 本社及び各県支部より救援物資の輸送を開始し、全国から55班の救護班が被災地へ向け出動
- 19時30分 秋田赤十字病院の救護班第1班が岩手県陸前高田市で救護活動開始
  ※1救護班の編成＝医師、看護師長、看護師2名、主事2名の計6名編成
- 02時26分 八戸赤十字病院のDMAT（災害派遣医療チーム）が宮城県石巻赤十字病院へ到着。ここを拠点として活動開始

12日
- 義援金受付開始

15日
- 鹿児島県支部の第1救護班8名が石巻市で活動開始
- 全国の救護班の出動班数が100班を突破

24日
- 鹿児島県支部の第2救護班6名が石巻市で活動開始

4月 1日
- 全国の救護班の出動班数が500班を突破

6日
- 鹿児島県支部の第3救護班7名が福島市で活動開始

8日
- 義援金配分割合決定委員会が設置され、第1次配分基準が決定。これを受け、13日より被災都道県へ送金開始

14日
- 介護施設、高齢者支援のため、介護チーム派遣（岩手県陸前高田市、大槌町の介護施設）。特別養護老人ホーム錦江園からも延べ3名派遣

15日
- 鹿児島県支部の第4救護班7名が石巻市で活動開始

22日
- 福島第一原発事故による周辺住民の一時帰宅を救護班がサポート（継続中）

6月 8日
- 鹿児島県支部第5救護班6名が石巻市で活動（救護班の活動としては最終）

13日
- 宮城県内の福祉施設へ373台の介護用ベッドを寄贈開始
- 鹿児島県支部のこころのケア班4名を石巻市へ派遣し、避難所を巡回

7月16日
- 鹿児島県支部のこころのケア第2班4名が石巻市で活動
- 岩手、宮城、福島県の避難所144か所に夏快適セット（冷感タオル、防虫スプレー、収納ケース等）配付

26日
- 岩手県内の福祉施設へ204台の介護用ベッドを寄贈開始

29日
- 陸前高田市に残った岩手県内最後の救護所を閉鎖。地元医療機関へ医療を引き継ぎ

8月 2日
- 福島県内の福祉施設へ96台の介護ベッドを寄贈開始

24日
- 仮設住宅入居者への生活家電セットは、東北3県を中心に9万1,439世帯へ配布
- 現在までに日本赤十字社へ託された義援金は、総額2,816億9,911万円、自治体を通じて全額が被災者へ届けられる

26日
- 全国の支部から延べ820の救護班、6,500人以上が出動し被災地で活動

9月 9日
- 義援金の受付を、平成24年3月31日まで延長することを決定

避難所となった陸前高田市の中学校体育館

石巻市 稲井公民館での救護活動

救護班の仮眠用テント内

石巻赤十字病院内で赤ちゃんにミルクを飲ます看護師

避難所内でのこころのケア活動

青少年赤十字の活動　絆を育み、深めよう

～わたしたちにできるボランティア～

3月11日の東日本大震災を受けて、青少年赤十字は、各加盟校（園）で、募金活動や応援メッセージの横断幕作成など、自分たちでできる支援活動に取り組んできました。

また、毎年開催している会議や、夏の小・中・高校リーダーシップ・トレーニング・センター（以下、トレセン）等の研修活動で、大震災にどう対応したらよいかというテーマを設定して、被災地の現状の理解、支援活動に関する情報交換、支援につながる実践活動などを展開してきました。

活動を通して共感できたことは、絆の大切さであり、一人一人の思いをつなぐことで支援の輪が大きく広がるということでした。東日本の復興を実感できる日まで、自分たちでできるボランティアを続けていきたいものです。

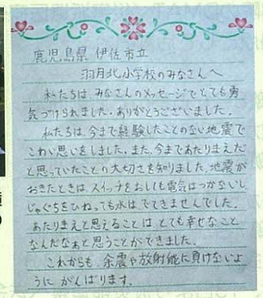
小・中・高校トレセン（写真上・下）
小学校トレセン・指導者講習会を8月3日（水）～5日（金）開催、中・高トレセンを8月10日（水）～12日（金）、いずれも県立霧島自然ふれあいセンターで開催

徳之島地区青少年赤十字一日トレセン
6月26日（火）徳之島町地域福祉センターで地区内37名の小・中学生が参加して開催。赤十字・青少年赤十字の理解、救急法実技、情報交換等に加えて、被災地に向けた諸活動を実施

指導者養成講習会
九州各県の指導者も大震災に向けた取り組みを情報交換

東日本大震災募金活動
吹上浜、砂の祭典会場での加世田中生徒による募金活動

伊佐市立羽月北小が送った応援横断幕と福島県小児童からのお礼の手紙


鹿児島県 伊佐市立
羽月北小学校のみなさんへ
わたしたちは みなさんのメッセージをとても元気づけられました。ありがとうございました。
わたしたちは 今まで経験したことのない地震でこわい思いをしました。また 今まであたりまえだと思っていたことの大切さを知りました。地震がおきたときは スイッチをおしても電気はつかないし じゃぐちをひねっても水は でてきませんでした。
あたりまえと思えることは とても幸せなことなんだなぁと思うことができました。
これからも 余震や放射能に負けないように がんばります。

青少年赤十字活動推進協議会
6月10日（金）、各教育事務所・市町村教育委員会指導主事、各地区青少年赤十字幹事校校長により開催

錦江園　ふれあいの夏祭り

8月6日（土）、錦江園夏の一大イベントである夏祭りが昨年に引き続き今年も「錦江園夏祭りin ハワイ」と題して行われました。

当日は、あいにくの雨となり急きょ屋内での開催となりましたが、「Ka Hula O Ululani」の皆様によるフラダンスでハワイ気分が盛り上がると、地域老人クラブやボランティアの皆様の歌や踊りが次々と披露され、利用者の皆様も楽しそうに一緒に手踊りをされたり、歌を口ずさんだりする姿が見られました。職員手作りの焼きそばやだんごなどの出店もたくさんの人で賑わい、一喜一憂の抽選会で夏祭りを締めくくりました。雨の中での開催でしたが、大盛り上がりの楽しい一日となりました。

「日本赤十字社第6ブロック青少年赤十字海外派遣事業」
九州各県の高校生等がカンボジア王国で国際交流

8月16日(火)～21日(日)に九州八県から総勢29名（高校生16名、指導者の先生8名、スタッフ5名）が、カンボジア王国で国際交流等を行いました。

高校での交流会

この事業は青少年赤十字の実践目標「国際理解・親善」の一環として、九州八県の高校生および指導者を海外に派遣し、日本赤十字社が支援する事業を体験すること、また海外の青少年赤十字メンバーとの交流をとおし、広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養うことを目的に開催されているものです。5回目の開催となる今回、団長県となった鹿児島県支部からは、高校生2名のほか、職員3名、看護師1名、指導者1名を派遣しました。

カンボジア赤十字社本社や支部、高校を訪問する中で、現地の青少年赤十字メンバーとの交流を3回行い、高校での交流会では鹿児島のおはら節と「世界に一つだけの花」の手話を披露しました。

国際理解ではポル・ポト政権時代の拷問場所であったトゥールスレン博物館、大量虐殺が行われた刑場跡のキリングフィールド、地雷博物館などを視察するとともに、地雷犠牲者を支援するリハビリテーションセンターを訪問し、参加者は平和の尊さや、赤十字の基本理念である「人道」について深く考えさせられました。

なお、現地での移動の際、縦横に走り回る3、4人乗りのバイク、信号のない交差点に我先にと進入してくる車両を目にし、日本との交通事情の違いにも驚きました。

トゥールスレン博物館で生存者の1人からの話を熱心に聞く参加者

交流会でのおはら節披露

カンボジア王国で「人々の温かい心」、「笑顔」、「何事にも一生懸命取り組む姿勢」に触れた参加者は、多くのことを学んだことと思います。その体験を帰国後、多くの人に伝えたいと力強く語ってくれた姿がとても印象的で頼もしく感じました。

夏休みに親子で水の事故防止について学ぶ講習会を開催！

第2回 親子DEチャレンジ！水辺のレスキュー

鹿児島県支部は水に親しみ、水の事故から尊い命を守るために必要な知識と技術を親子で学んでいただくために、8月6日(土)レインボービーチ桜島で「第2回親子DEチャレンジ！水辺のレスキュー」を開催しました。

当日、親子14組41名の参加者は、自分自身が水の事故に遭遇した際の、自分自身を守る方法（着衣泳、ペットボトルでの浮き身）や安全に溺者を救助する方法を体験したり、普段触れる機会のない救助用道具に興味津々でした。

人気の救助用ボートに乗る子どもたち

なかでも救助用ボートは一番人気で、子どもよりも夢中になっているお父さんもいらっしゃいました。

また、昼食の非常炊出しご飯を使ったカレーライスは大変好評で、炊出し袋に入れたお米が美味しい昼食に早変わりしたことに子どもたちはびっくり！たくさんおかわりをしてくれました。

アンケートには「久しぶりに海で泳ぎました。子どもも最初はこわごわでしたが、徐々に海にも慣れてきました。また来年も参加したいです。」、「今日は、いろいろな道具を使って人を助ける方法を覚えました。とても楽しい一日でした。」などの感想をいただき、当日参加したスタッフ27名はとても充実した気持ちでいっぱいになりました。

楽しく学ぼう キッズ献血を開催しました

鹿児島県赤十字血液センターでは、小学4年生～6年生を対象に夏休みの自由研究を応援するとともに、近年若年層の献血離れが深刻な中、これからの献血基盤を担う小学生児童とその保護者を中心に、献血に対する理解と献血思想の普及・啓発を図るため、夏休みの8月8日(月)、9日(火)、10日(水)の3日間、午前の部、午後の部で合計6回に分けて、「楽しく学ぼうキッズ献血」を開催いたしました。

今年度は例年の開催日より早く開催いたしましたが、3日間の合計で356名の親子が参加し、けんけつちゃんによるアニメーション「献血のしくみ」や「アンパンマンのエキス」を鑑賞したり、『キッズ献血』を楽しみました。

『キッズ献血』とは、参加者が抽選でお医者さんや看護師さん、血液センター職員、献血者に扮装して献血の模擬体験をする企画です。

お陰様で、父母も扮装したわが子を撮影したり、「アンパンマンのエキス」を見て感動したり、血液センター吉田所長による「いのちの授業」もあり参加した児童や父母達は改めていのちの大切さが分かり大好評でした。

帰りには「キッズ献血」の記念写真や毎年児童に好評のけんけつちゃんぬいぐるみ等を差上げました。子どもたちからのアンケートでは「献血が出来る年齢になったら、献血をしようと思います」「いのちの大切さが分かりました」と感想を多数いただきました。

キッズ献血を体験する子どもたち

鹿児島県赤十字血液センター「けんけつ応援隊」発足

近年、鹿児島県におきましても全国と同様本格的な少子高齢化社会を迎え、これまで以上に若年層を中心とした幅広い年齢層の多くの方々からの献血への協力を必要とする時代を迎えております。

このようなことから、鹿児島県赤十字血液センターでは、献血に関するボランティア「けんけつ応援隊」を昨年12月から各献血会場にて募集し、現在41名の隊員登録をいただきました。

初期目標をしておりました人員に達したため、鹿児島県赤十字血液センター「けんけつ応援隊」結団式を、7月30日(土)に鹿児島県赤十字会館研修ホールで行い、23名の隊員が出席されました。

けんけつ応援隊のみなさん

当日は、鹿児島県赤十字血液センター吉田所長より『健康・利他の地域づくりと献血応援隊』の講話をはじめ、「けんけつ応援隊」の目的等について説明をいたしました。

会場からは熱心な質疑等もあり、これからの血液事業を支えていただく頼もしい応援隊の発足になりました。

聞いて効いて Vol.53

健康なび ～目指せTANITAな生活～

鹿児島赤十字病院

巷では体脂肪計シェアNo1を誇る「タニタ」の社員食堂レシピ本「体脂肪計タニタの社員食堂500kcalのまんぷく定食」という本が大ヒットしているらしい。TANITA社員のような健康生活を送っていない筆者にとって健康診断は毎年行われる一大イベント。今年もやってきました「健康診断」。一大イベントに挑む筆者の熱い想いを綴ってみました。

1.「健診日決定」

期間限定の緊急ダイエットが始まる。大好きな炭水化物を控えようとするがこれがなかなか苦しい。それと意志が弱く運動ができない。

2.「健診前日」

朝１回目の「検便」採取、キットの使用方法に基づき試みるがこれもなかなか上手くいかない。無常にも敷いた用紙が滑り落ちてしまう。さすがに便と対峙している姿は家族にも見せられない。21時以降絶飲食となるので夕食のために早めに帰宅する。

3.「健診当日」（※標準的健診の場合）

朝２回目の便採取、排便とともに尿が出てしまい検尿時に不足してしまわないか不安となる。

①【検尿】息を殺して振り絞って紙コップの半分まで満たす。
②【レントゲン】「息を吐いて～」の言葉が必ず返ってくると信じて息を止める。
③【身長】歳のせいか毎年少しずつ縮んでショックを受ける。
④【体重】衣服・身に着けている物を測定する人に迷惑をかけないように可能な限り必死に外す。
⑤【腹囲】メタボを自認しているが、へそに微妙に力が入る。ズボンサイズ以上の測定値に落胆してしまう。
⑥【視力】自動車免許更新が近いので“ガン見”で別な意味でがんばる。
⑦【聴力】眼を閉じて神経を集中させようとするが息を止めてしまい息苦しさを感じる。
⑧【心電図】個室に通され両足首、両手首、胸部に器具をつけられるが、冷やっとして微妙に感じてしまう。
⑨【胃部検査】以前は、バリウムを飲み透視台をぐるぐる回り自分の体重を両手で必死に支えていたが、バリウムが口の中から大爆発しそうで、選択できる胃カメラに変更した。体内の映像をモニターを通して毎回見ているが、これはホルモンだなといつも思ってしまう。
⑩【採血】看護師さんの「ちくっとしますよ」の言葉を信じるが、奥歯に微妙な力が入る。
⑪【診察】担当医師が「運動するだけでだいぶ違いますよ。」と指導してくれるが、実行に移せない歯がゆさがあり、犬を飼おうかと真剣に考える。

4.「結果通知」

２週間後ぐらいに届くが、通知表をもらう気分である。前年と比較して悪くなった項目があるとなかなか家内にも見せづらい。

年１回「健診」を受けていますが、年を重ねると「健診」の大切さが分かってきます。早期発見・早期治療につながり健康が維持されます。「楽しい健診」を毎年受けられればいいなあと思っています。

〔健診問合せ：鹿児島赤十字病院 099－261－2111 内206 社会係〕

リウマチ教室のご案内

鹿児島赤十字病院では、リウマチの患者様及び患者様のご家族の方などを対象に、平成21年11月からリウマチ教室を開催しています。内容は、関節リウマチの基礎療法と治療についてＤＶＤを約30分流しています。興味のある方はどなたでもお気軽にご参加ください。

リウマチ教室の様子

- **日　　程**　奇数月：月曜日と第1・3・5水曜日
  木曜日：木曜日と第2・4水曜日
- **時　　間**　曜日にかかわらず毎回10:00からと14:00からの2回/日
- **スケジュール**　10月：薬剤について
  11·12月：リウマチの外科的治療～手足の変形はどこまでなおるようになったのか～
  1·2月：リウマチ基礎療法　　3·4月：リウマチの現状について
- **場　　所**　外来待ち合いホール（分からない方は当日看護師へお聞きください）

赤十字活動を支え会員相互の親睦を図る赤十字有功会

平成23年度鹿児島県赤十字有功会総会が7月27日(水)、鹿児島市の「鹿児島東急イン」において開催され、鹿児島銀行相談役の大野芳雄有功会会長をはじめ、会員55名が出席されました。

会に先立ちまして、赤十字事業に多大なご支援をいただきました会員物故者と、東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

会では、大野会長のご挨拶の後、日本赤十字社鹿児島県支部の事業報告や、東日本大震災に関する日赤の活動状況のビデオと鹿児島県支部の活動報告を行いました。

議事では、平成22年度有功会の事業報告及び収支決算、平成23年度の事業計画、収支予算や役員改選について協議を行い、有功会の目的達成に向けた事業の推進や日本赤十字社に対する協力を一層強めていくことを決定いたしました。

続いて、記念講演では、「認知症の人と家族の会代表」の水流涼子先生による「認知症を理解し支えあうために」と題してご講演をいただき、出席者の皆さんは熱心に聞き入っておられました。

講演終了後、新会員の方々をご紹介しながら懇親会を行い、会員相互の親睦を深めることができました。

講演をされる水流涼子先生

社会貢献活動をお考えの企業さまへのご案内

日本赤十字社の活動は、赤十字の趣旨にご賛同いただいた皆様からお寄せいただいた浄財で支えられています。人間のいのちと健康、尊厳を守る赤十字の活動に、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

～企業さまによるご協力例～

○創立記念事業としての寄付
○チャリティイベントの収益金を寄付
○売上金等の一部を寄付
○従業員のみなさまや店舗利用者さまによる募金
※ご希望の場合は、募金箱を貸し出します。

○寄付金付き自動販売機の設置
コーヒー、ジュースなどお買い上げのたびに、一定額が赤十字の寄付金となります。
事業所等での設置についてぜひご検討ください。

～法人社員証（アクリル製ディスプレイパネル）～

日本赤十字社鹿児島県支部に事業資金のご協力があった法人・団体様に、社会貢献PR等にご活用いただくため、右掲のご協力を証する「社員証（会員証）」をご希望により贈呈させていただきます。
（A6サイズ105㎜×148㎜）

売上金の一部が赤十字への寄付金となります。

設置者の社会貢献活動としてアピールできます。

設置者様のご負担はございません。

※詳しくは日赤鹿児島県支部までお問い合わせ願います。

～ご自身や故人の思いを赤十字へ～

各種寄付金を申し受けます。

ご自分や故人の財産の一部、或いは「香典返し」に代えてご香典の一部を広く社会に役立てたいとお考えの方へ、当県支部では、遺産・相続財産の寄付や香典返しによる寄付を申し受けます。また、これらの寄付金には非課税となる税制上の優遇措置があります。詳しくは日本赤十字社鹿児島県支部組織振興課までお問い合わせください。

日本赤十字社鹿児島県支部
組織振興課
☎ 099－252－0600
ホームページ http://www.minc.ne.jp/nisseki/
代表メール shibu-rc@po.minc.ne.jp
日赤鹿児島県支部　検索